



# 学年だよりに込めた思い

学校長 村越 新

本日から、年度当初の「授業参観・懇談会」が始まります。お子さんが張り切って学習する姿を見ていただき、学年・学級の方針等をご理解いただく機会にさせていただけると幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本年度の学年だよりの**タイトル**には、担当教職員の**思い**が込められています。学年の重点とともに紹介します。



- 1年「くじらぐも」 全員が高く大きく成長していけるように願って  
【重点】：最後まで話を聴く
- 2年「スイミー」 みんなで力を合わせて、一年間過ごせるように  
【重点】：話を聴く
- 3年「サンフラワー」 希望に向かって大きく前進してほしい  
【重点】：ていねいな言葉づかい
- 4年「ボンド」 子供たち同士が強く、固くつながってほしい  
【重点】：リアクションして話を聴く
- 5年「ベテルギウス」 オリオン座の一等星でエネルギッシュ、学年カラーも赤  
【重点】：自分で考える、大人にすぐ頼らない
- 6年「友」 今までと、これからの友を大切にしてもらいたい  
【重点】：休み時間の過ごし方
- おうぎ「おうぎ」 変わらずに、安心感をもって生活してほしい  
【重点】：話を聴く

担任だけでなく、教科担当等も令和8年度の重点目標を立てています。

- 例 外国語 「表現力を磨かせる」
- 図工 「子供の発想を大切にする」
- 音楽 「扇シンフォニーをつくり上げる」
- 理科 「どの子も自分の考えを書けるようにする」
- 栄養 「子供に“食”の興味・関心を持たせる」
- 養護 「子供、職員、地域に求められる保健室」

などです



# スマホ依存を考える

子どもの「スマホ依存」深刻という記事を見ました。(4月17日、東京新聞) 要約すると、次のような内容です。

- ・ 46.2%の学校で、スマートフォン・ネット依存が疑われる児童・生徒がいた
- ・ 視力低下、睡眠不足が心配
- ・ 頭痛、めまいを訴える子ども 増えている
- ・ 不登校、家庭内暴力につながるケースが増えている



『致知 2026.5月号』では、脳科学者の川島隆太氏が「スマホの危機から子供たちを救おう」と題した対談で、次のことを語っています。

- ・ スマホ中毒の親に育てられた子がスマホ中毒になるというのが今の親子関係の図式。そういう環境で育った子は他人とのコミュニケーションを結んでいないので他者の**気持ちが理解できない**。親との愛着形成が不十分であることから、例えば他の大人をなかなか信じることができず、自分の**感情を抑えることができない**という傾向が出てくる。
- ・ スマホ、タブレットの利用が思った以上に**学力を引き下げている**ことが分かった。スマホを一日に一時間以上利用している子供たちは、全く勉強しない子供たちよりも学力が低いというデータが出て、今までの常識では理解できない何かがあることに気づかされた。
- ・ 毎日そんなに(スマホやタブレットを)使っていない高校生が5~10%いる。これは、行動パターンとして、勉強する時と寝る時には**スマホを切る習慣**ができている子供たち。電源をオンにしておくといついついスマホを見てしまう弱さがある、スマホを見て勉強しないしていると**夢が叶わない**。そのことを自分でも分かっているので、泣く泣く電源を切ることができる子供たち。そういう子は努力をしたらただ成績が上がる。(中略) スマホを使い続ける残りの90%の子は脳のデータの推移を見ていくと努力しても**努力が自分に跳ね返らない**、場合によっては底辺に沈み込んでいく危険性があるから。